

群読『河童と蛙』 音読・群読の評価規準

	音量に関わる規準		抑揚に関わる規準		緩急に関わる規準			表現に関わる規準	
	声の大きさ	声の大小	声の高さ	声の抑揚	読む速さ	読み方の緩急	間の取り方	リズム感	表現の工夫
A	・声の大小だけでなく、強弱の使い分けもできている。	・声の大小を変化させることで、自分たちの目指す表現を実現したり、表現技法を生かしたりすることができていた。	・声の高低だけでなく、出し方も工夫している。 (抑えた声、裏声、歌声デフォルメした声など)	・場面の静けさや活発さを、声の大小だけでなく高さも生かして表現している。	・どんな速さでも聞き取りやすい発音である。 ・どんな速さでもスムーズでよどみない読み方である。	・間の取り方と速さの工夫を組み合わせることで詩の中の時間の流れや緊張感なども表現することができている	・単に間を置くのではなく、溜め・空白・リズムなど「間」が果たす効果や役割を生かしている。	・七五調と散文調の部分を意識しリズムの有無を生かしたメリハリのある読み方をしている。	・B基準をクリアした上で、より発展的な創意工夫が加えられている。 (欄外に具体例)
B	・最初から最後まで聞きとれない部分や、うるさすぎる部分が全くない。	・声の大小を使い分けて、詩の展開や場面を表現している。	・聞き手を不快にさせない範囲で高さを調整できている	・詩の場面に合わせて、声の高さを使い分けて読んでいる。	・最初から最後まで問題ない適切な速さである。 ・活舌にも特に問題がない。	・速く読むこと、ゆっくり読むことの効果を生かして読んでいる	・適切に間を取ることで聞きとりやすい読み方ができている。	・前半の七五調や対句・反復法を生かしたリズム感のある読み方をしている。	・多人数を生かした「群読の工夫」が2つ以上採用されている。
C	・必要以上に大声を出している場面がある。 ・全く聞き取れない部分がある。	・最初～最後まで声の大小に変化が見られない。 ・テーマと声の大小がかみ合っていない。	・声の高さが詩の展開や、場面の様子にそぐわない部分がある ・高すぎ、低すぎで聞きづらさや不快さを感じる部分がある。	・最初から最後まで声の高さに変化が見られない ・テーマと声の高さや抑揚がかみ合っていない。	・つまずきや読み間違いが多い。 ・活舌が不十分で聞き取りづらい部分がある。 ・工夫だとしても速すぎ・遅すぎとを感じる部分がある。	・最初から最後まで読む速さに変化が見られない ・読む速さの上げ下げが、場面の雰囲気とあっていない。	・間を取ることをせず、一本調子の読み方である ・不適切な間の取り方で、おかしい句切り方や、リズム感の悪さが生じている。	・七五調や反復法・対句などのリズムにつながる表現が生かされていない。	・多人数を生かした「群読の工夫」が1つもないor1つしかない。 ※ 群読の工夫がない場合は、他の工夫があっても評価しない。

- ※ 表現の工夫：A基準の例
- ・リズム楽器や手拍子などを効果的に用いて、リズム感や躍動感をより高めている。
  - ・「ラップのような口調」「歌舞伎のような声の出し方」など、意図に合わせてデフォルメされた表現を生かしている。
  - ・(あくまで群読の完成度を高めた上で) 身振り手振り、ダンス、戯劇化などの視覚表現も取り入れ生かしている。
  - ・群読本体を邪魔しないように十分配慮した上で、効果音やBGMなどを生かしている。
- ※ あくまでこれらは例です。他にも様々な表現や工夫の仕方があると思います。
- ※ これらの工夫は「群読が完成した上でのオプション」です。肝心の群読自体の完成度が低い場合は評価しません。
- 先生が恐れているのは、何だか面白そうなこれらの工夫に気を取られて、一番大切な群読自体が二の次、三の次になってしまうことです。

<参考資料>

人数を生かした「群読の工夫」の例 (読み方の名前は、あくまで鈴木先生が便宜的につけたものです)

1	人数調整	盛り上がる場面、迫力ある場面、クライマックスなどは読む人を増やす。 静かな場面、寂しい場面、デリケートな場面などでは、読む人を減らす。
2	輪唱読み	合唱の輪唱のように、同じ部分を、複数の人間がずらしながら読んでいく。
3	呼応読み	誰かが呼び掛けるように読んだら、それに応えるように他の人が読む。 対句表現とも相性が良い
4	リレー読み	一連の部分を、読む人を次々と切り換えながら読んでいく。
5	コーラス読み	メインパートを大きな声で読んでいるときに、コーラスやBGMのように小さな声でリズムパートなどを読む。
6	パート読み	面に合わせて「男声・女声」「高音・低音」など、声質や読み方を合わせたグループを作って読む。 (パートの組み方や狙いも重要な工夫!)
7	適者適演	場面に合った声質の人がいる場合、その人の声の良さを生かした役割分担をする。